



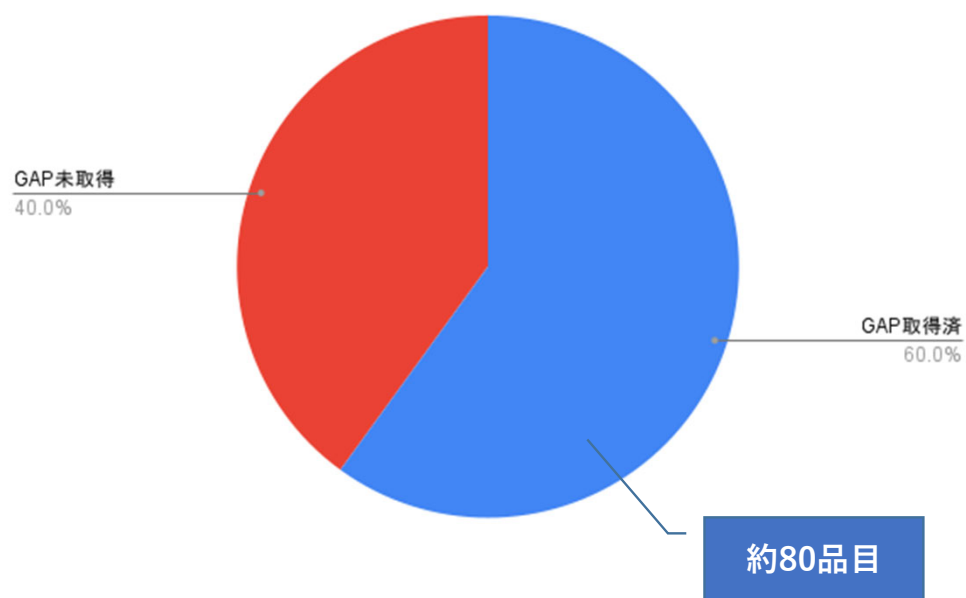
GAP普及の取り組み

コストコホールセールジャパン株式会社
2023年11月10日

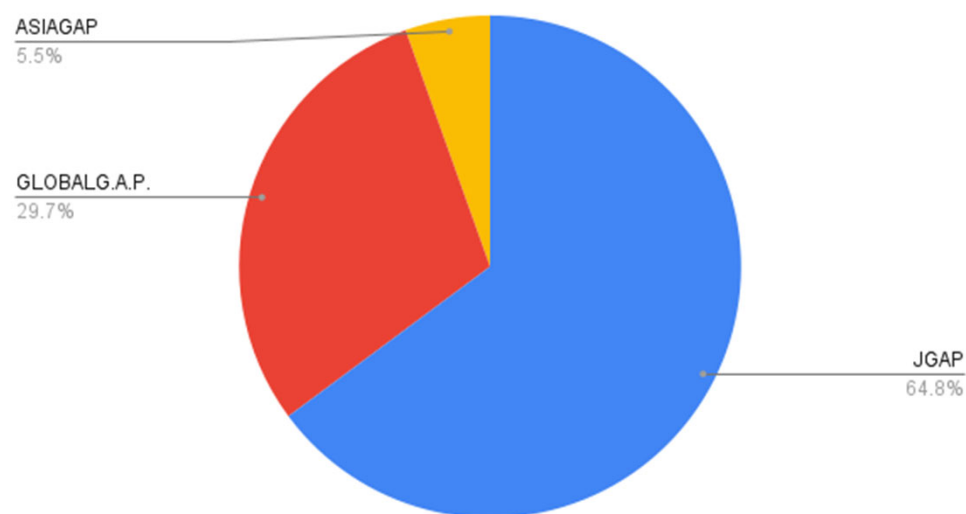


最新の取得状況

GAP取得率(生産者ベース)



GAP種別



2023年10月現在

商品事例



たまねぎ 3kg/5kg

年間販売数 約8,000トン

北海道、九州に17の生産者

- JGAP取得 15件
- GLOBAL G.A.P.取得 2件

*GAP取得率は100%

サステナビリティの取り組み



当社のサステナビリティの原則と目標

私たちは、サステナビリティとは、人々や世界への影響を考慮しながら、メンバー、従業員、サプライヤー、株主、コミュニティ、環境にとって正しい行いをすることであると信じています。私たちには自分の役割を果たす義務と責任があります。

私たちは、世界で最も複雑な問題のいくつかに対処するためのアプローチとして、3つの原則を掲げています。

- 私たちが繁栄するためには、世界が繁栄する必要があります。私たちはその役割を果たすことに全力で取り組みます。
- 私たちは私たちのビジネスに関連する課題のうち、より現実的で積極的に結果に貢献できる箇所に焦点を当てます。
- 私たちはすべての答えを持っているわけではありません。学びながら継続的な改善を目指します。

これまでの歩み



現状把握



GAP取得状況把握のためのアンケートを実施

取引先64社のうち、JGAPまたはGlobal GAPを取得していると回答があったのは7社のみ

- グローバルでの調達基準を満たすべく取り組みを開始
- GFSI認証に加えて、日本で最も普及が進んだJGAPの受入れを検討

取組目標設定・宣言



GAPの方向性（サプライヤー様への要求事項）の確定

2021年には販売するすべての青果物が、JGAP又はGFSI認証（GLOBAL G.A.P.等）を取得した農場、生産者から供給されることを目指す

説明会の実施

約50社に参加いただき当社の方針を説明

JGAP取得を検討：25社

GGAP取得を検討：2社

いずれかの取得を検討：1社

準備・周知



GAP指導員の育成

JGAP指導員研修受講により、当社社員の知識向上に努める

*現在はASIA GAP指導員の資格を取得

サプライヤー様向け説明会の実施

バイヤー、購買責任者が産地での説明会に参加し、当社の方針の周知、協力をお願いを続ける

- 新しい地域に出店する際に、取引先の新規開拓を兼ねてGAP説明会を実施
- 取得がゴールではなく、継続することの重要性を説明

進捗確認



進捗状況確認のためのアンケートを実施（4月）

約70社に取得状況を確認したところ、
JGAPまたはGFSI認証を取得済と回答：約30社
未取得と回答：約40社

進捗状況確認のためのアンケートを実施（10月）

先のアンケートで未取得と回答された約40社に再度取得状況を確認したところ、
JGAPまたはGFSI認証を取得予定と回答：約30社
取得予定なしと回答：約10社
取得予定のないサプライヤー様との協力体制をどう構築するかに課題がシフトしていく

2023年

2022年

[illegible][illegible]

試行錯誤



未取得、取組み予定のないサプライヤー様向けのGAP導入支援プログラムを実施

グローバルマーケットプログラム基礎レベルを活用したオンライン講座を実施

- ・受講を2021年以降の取引の条件とした
- ・受講しながら点検シートに記入し提出していただくことで受講証明とする（約5時間）
- ・受講を切っ掛けとしてGAPへの理解と関心を高め、2022年までにGAPの取得を目指す

2021年は2年目として、グローバルマーケットプログラム基礎レベルを基準とした2者監査を計画したものの、コロナの影響もあり思うように進まず

軌道修正



プログラムの再構築

2021年末の時点で生産者ベースでのJGAP及びGFSI認証の取得率は約5割

- ・ この頃にはサプライヤーに紐づく生産者数、品目数の把握が進んだ
- ・ 取得支援のために、グローバルマーケットプログラムからJGAPに2者監査の基準を変更
- ・ JGAP2022の発行を受けて2者監査の基準の再構築を始める

新展開



新基準による実地調査プログラムを開始

現時点でGAP取得の取り組みを宣言されていないサプライヤー様を対象として、JGAP青果物を活用した第三者機関による実地調査プログラムを開始

- ・ GAPに基づく管理手法を意識する切っ掛け作り
- ・ GAP取得へのアプローチを支援する
- ・ サプライヤー間での不公平感を是正



今後の展開

当社グローバル基準も考慮し、新たなGAPの要件を整理中

- ・基本方針

引き続きGAP推進の立場は変わらないが、必ずしも認証取得をゴールとせず、2者監査（実地調査）を併用する

①Field Pack商品（圃場で小売り用の包装にパックされるもの）は、従来通りJGAP又はGFSI認証を取得すること

②それ以外の青果物は、JGAPから食品安全に関する項目を抽出した当社独自の基準書に基づき、選果場（パッキング施設）の実地調査をおこなうこと

→ GAP認知度の向上に努め、認証を取得した農産物を率先して購買することで、GAPの推進に貢献して参ります